

## 復興に活躍する 技術士



日本技術士会防災支援委員会 佐藤隆雄氏

## 息の長い まちづくり再生支援

岩手県大船渡市の末崎町碁石地区は、市の南端の碁石半島のほぼ中央南側に位置し、西館、泊里、碁石、三十刈、山根の5つの基礎集落からなるおおむね300世帯の地域である。地区の建物被害は約150戸を数えたが、そのほとんどが西館、泊里の被害だ。

筆者ら技術士をはじめ弁護士、土地家屋調査士、不動産鑑定士などの専門士業家で構成された「災害復興まちづくり支援

機構」は、昨年8月に地元の方から支援要請を受けた。10月初めに碁石地区の5つの公民館長に会い、復興まちづくり協議会の立ち上げをお願いした。

第1回復興協議会を12月初めに開催し、次のような復興まちづくりの進め方を提起した。

まず、各集落・各地区における復興希望を把握すること。高台移転や現状復興、公営住宅入居希望、他地区への移転など、どんな復興を望むのか。そし



復興協議会。大船渡市民とまちづくりのため対話を重ねた

て、希望をかなえるための事業制度と費用負担を説明する。

また、被災跡地の土地利用計画については、跡地買収価格にも大きな影響を及ぼすため、被災跡地の売却を希望するのかし

ないのか、一体的な土地利用が可能なのか、虫食い状態になるのか—について把握する。

さらに、集落・地区としての「まち」のあり方、漁業・農林業・観光施設など産業復興プラ

ン、集会施設や高齢者・子供施設といった公的施設のあり方、道路や公共交通などのあり方、伝統文化の継承や景観の生み出し方なども課題に挙げた。

これまで11回に及ぶ会議を実施。台湾大学の陳教授による台湾・集集地震（1999年9月）の復興を学ぶミニ講演会なども開いた。

高台移転に関しては、希望者の意見をとりまとめ、候補地を選定。地権者の売却に関する合意もようやく取れた。これからがいよいよ本格的な総合的まちづくりの段階に入る。息の長い復興まちづくり支援を続けるつもりだ。